

# 動物園の存在意義と教育的活用方法の提案

平成30年度 3年1組(32) 三津匠平  
指導 教育学部 向 平和

## はじめに

日本動物園水族館協会（JAZA）によると、動物園の役割は「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」の4つである。あまり認識されていない「教育・環境教育」に目を向け、動物園の社会教育施設としての役割を考える。

## 目的

- ①存在意義の顕在化  
動物園の役割の整理  
小学校教科書における掲載内容の調査
- ②教育的活用方法の提案  
現地調査  
小学生を対象とした実践

## 研究方法

- ・文献調査→研究内容Ⅰ  
社会教育施設に関する法令等の調査  
小学校理科の教科書における動物園の活用について調査
- ・動物園の職員へのインタビュー調査→研究内容Ⅱ  
動物園での教育活動・教育資源の実態を調査
- ・小学生を対象とした教育実践に参加→研究内容Ⅲ  
動物園を活用した教育活動を企画・実施

## 研究内容Ⅰ

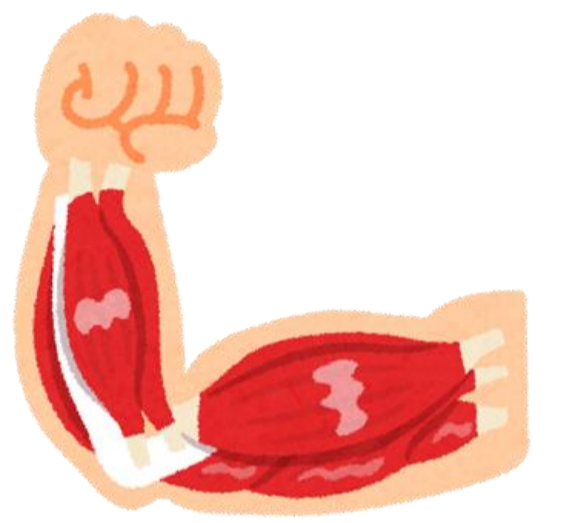
社会教育施設としての役割

生涯学習・社会教育としての動物園の活用

- 教育を受ける権利として
- ・UNESCO「学習権宣言」（1985）
  - ・教育基本法（第3条・第12条）
  - ・ブダペスト会議（1999）  
「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言」  
リカレント教育の場として

小学校4年生の教科書

5社の教科書を比較  
「ヒトの体のつくりと運動」  
2社で明確に掲載されていた



国際成人力調査（OECD PIAAC 2012）  
日本の30歳以上の成人の通学率1.60%  
（ランキング18か国中で最低、最高は8.27%フィンランド）

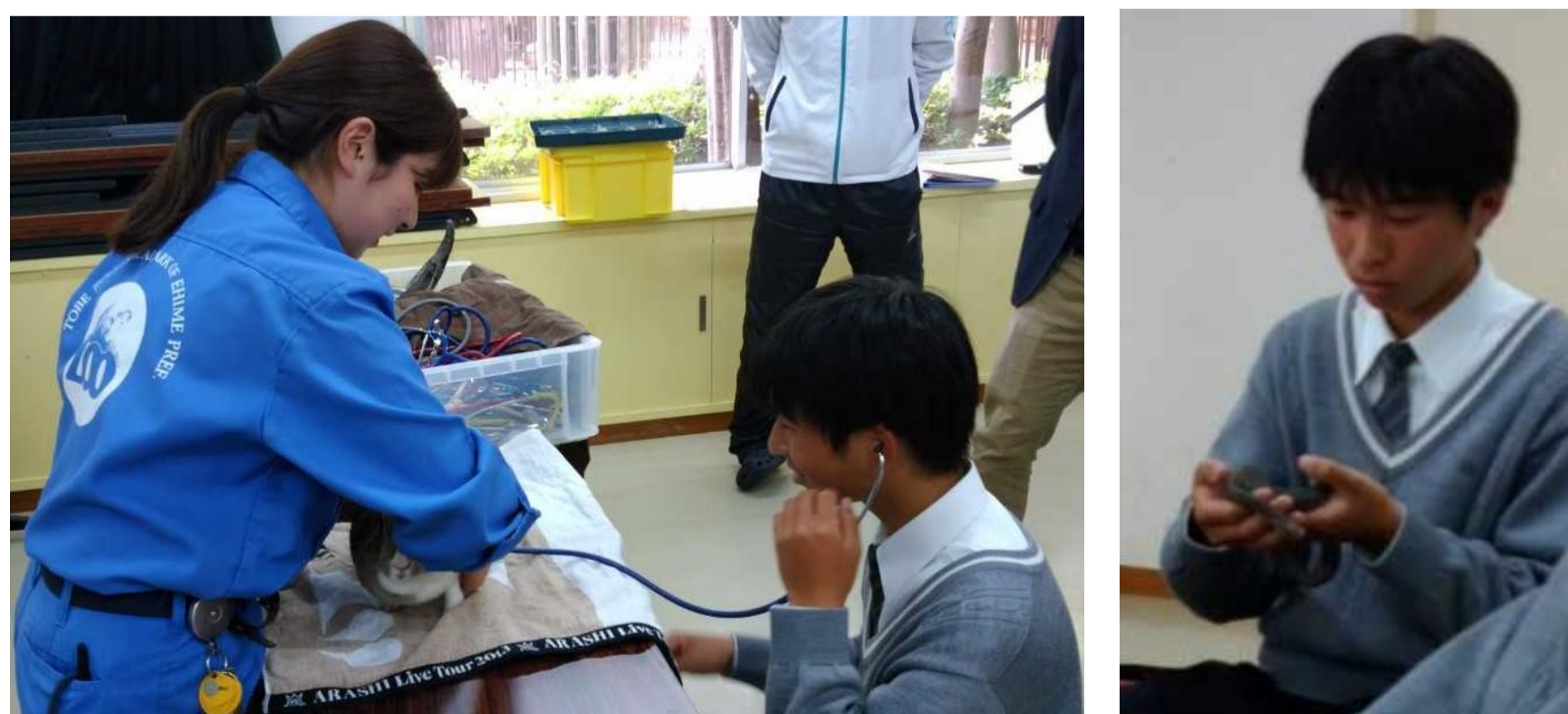
## 研究内容Ⅱ

調査日時：平成30年4月27日

調査場所：愛媛県立とべ動物園

### 調査結果

- ・移動動物園の特徴、実施上の苦労や効果など様々なことに関して動物園の職員にインタビュー→指導の工夫として実際の動物の骨格や糞を教材にして子ども達に見せるという方法で行っていた。たとえばゾウの糞をレプリカにするとき、実際の糞を乾かして透明のペンキを塗って作製し、未消化な部分がわかるようにしていた。
- ・学校に赴いて授業を行うが、そのときにヘビやウサギなどの小動物を連れて行って子ども達にふれあい体験を実施
- 当日、私もウサギやヘビを触らせてもらった。確かに百聞は一見に如かずというように聞くよりも触ったり見たりする方が可愛さや身体の特徴などを実感できた。



- ・動物に関するクイズを出して子ども達にゲーム感覚で動物のことを知ってもらおうということも行ってた。どうしてもワイワイと騒いでしまう小さな子ども達も耳を傾けてくれるようだ。
- 上の写真（左）は、実際に聴診器でウサギの心音を聞いている様子だ。動物クイズでウサギの脈が人よりも早いことを感じる。
- ・子ども達がいかに興味を持ってくれるか、いかに楽しんでくれるかで移動動物園の質は決まる。クイズなどで子ども達の興味を引き、そこから発展させた話にもっていくことで子ども達は熱心に話を聞いてくれる。工夫をしながら実践しているようであった。

## 研究内容Ⅲ

日時：平成30年7月14日

場所：愛媛県立とべ動物園

対象：愛媛大学教育学部附属小学校4年生

小学生、保護者、高校生、大学生の4人一組

動物の様子を写真や動画に収める。  
撮ったものから発表したい内容を抜粋

### ロイロノートとは

「思考力」「プレゼン力」育成ツール  
テキストだけでなく写真や動画、地図などのカードを繋げてつくるプレゼンテーション

まず1時間動物園内を散策し、取り上げたい動物の写真撮っていく。

このとき最初から動物を決めて写真を撮るより、色々な動物の写真を撮っていった方があとからまとめやすい。

ジャガーやペンギンの餌やりを題材としている子どもが多かった。

飼育員さんが説明しながら餌やりをするのでわかりやすく、あとからまとめやすいようだった。

私には考えつかないところに焦点を当てている子どもが多くて少し驚いた。

プレゼンテーションもしっかりまとめられていて全体的にすごくいい学習になったはずだ。

## 結論

- ・動物園はただ動物を飼育、展示しているだけの遊び場ではなく、れっきとした教育施設である。
- ・動物園だからこそできることを明確化する。
- ・動物園の役割がレクリエーションから変化。
- ・「種の保存」や「教育」が主な役割。しかし、楽しむことも重要である。

## 考察

- ・動物園は教育のために設置されている。
- ・テーマパークみたいに遊ぶことが100%ではないが、楽しみながら、動物を見ることは大切である。特にスタンプラリーなどレクリエーション感覚で見ると小さな子どもにもわかりやすい。
- ・子どもの時に来ると大きくなってから来るとは見るところや楽しむ場所が違うので、いろいろな角度から見方が楽しめる。
- ・土曜学習として来た小学校4年生達は私にはできない見方や考え方をしていた。プレゼンテーションの意欲もとてもあって、上手くできず悔しくて泣いている子さえいた。そういう意欲があるのは動物を好きだと思う気持ちや動物園に来るのが楽しいという気持ちの表れなのではないか。
- ・人間とは違うところを見つけると知識も増えていい勉強になる。そういった実際に目にできるという点では社会教育施設として活用が期待できる。

## 謝辞

この研究において指導をして下さった愛媛大学教育学部の向平和先生、とべ動物園の宮下敬介さん・池田敬明さん、大学生の皆さん、課題研究のための授業や日程を考えてくださった加藤先生、本当にありがとうございました。